

## 卒業生が作曲した校歌 — 旧制東洋女子歯科医学専門学校

東洋学園大学は1992年（平成4年）の開学から10年間は千葉県の大学でした。人文学部の教育は4年一貫して流山キャンパスで行われ、校歌は第1回卒業式を期して制定されました。当時の本郷キャンパスでは東洋女子短期大学がなお盛んで、これを改組転換して大学現代経営学部を設置したのは2002年のことでした。2006年から教養教育重視の方針に基づき、両学部の1・2年次を流山、3・4年次を本郷所属とする学年別キャンパス制となって今日に至ります。

### 東洋女子歯科医学専門学校々歌

2キャンパスとなった2002年以降、流山の風土のみが詠われている校歌をどうするか、たびたび議論が交わされましたが、本年4月、歌詞の一部を「改編」して文京区本郷を詠み込むことで落ち着きました。

時間を要した理由の一つは作詞者にありました。作詞は大学1回生を中心とする“東洋学園大学学生有志”だったからです。北総の地で大学の基礎を築いた彼らが4年間の想いを込めた詞に、僅かでも手を加えることにはこれだけの時間が必要でした。

東洋学園最初の校歌は81年前の1929年（昭和4年）制定です。当時の本学は東洋女子歯科医学専門学校時代、日本に2校しかなかった女性歯科医師を養成する旧制専門学校（現学制の大学に相当）でした。

作詞は創立者の宇田 尚（<sup>うだ ひさし</sup> 槲山<sup>ぼんざん</sup>）先生が手がけましたが、作曲家が決まらず完成が遅れていました。そこで先生は、高等女学校時代に音楽学校進学も考えた1928年卒業生総代に歌詞を託し、作曲家への斡旋を依頼します。この卒業生は当時、本学から研究生として派遣された官立東京高等歯科医学校・文部省歯科医師試験附属病院（現在の東京医科歯科大学）に在籍し、修了後は本学に戻って教職に就く予定でした。

その後、校歌作曲は思わぬ形で落ち着くことになります。

本展では東洋女子歯科医学専門学校校歌と、その作曲者に関する資料を公開します。

